



世の中の安寧と人々の幸福の願いを込めて

ねぶた師手塚茂樹氏が

助け合いをテーマにねぶた絵を制作

青森県赤十字血液センターがねぶた師手塚茂樹氏に制作依頼したねぶた絵が、5月7日、赤十字関係者にお披露目されました。

お披露目されたねぶた絵を横に、ねぶた師の手塚氏は、「日本赤十字社の使命である『苦しんでいる人を救いたい』という思いと不動明王、慈母観音それぞれの思いが重なり、インスピレーションを得て描いた。このねぶた絵を通して、一日も早い新型コロナウイルスの収束と県民の皆様の健康と幸福、助け合いの心が育まれることを切に願っています。」と言葉を述べました。

お披露目されたねぶた絵の題材は、「不動明王と慈母観音」、どこまでも深く慈悲の心で温かい慈しみのまなざしを向ける慈母観音が向かい合い、中央には、日本赤十字社の社紋にあしらわれている鳳凰が翼を大きく広げ、羽ばたいている構図で描かれています。

お披露目されたねぶた絵は、青森献血ルーム入口に展示されていますので、是非お立ち寄りください。



青森献血ルーム入口に展示されたねぶた絵

作者 手塚茂樹 (てつかしげき)

1975年、青森市に生まれる。
1980年、佐藤伝蔵(3代名人)のねぶたを見て感銘を受ける。高校時代、千葉作龍(5代名人)の講演を聞いて触発され、ねぶた制作の道へ。高校卒業後は市内の印刷会社に勤務する傍ら、ねぶた制作に取り組み、2001年から竹浪比呂央に師事。2006年から13年まで浅虫温泉のねぶたを制作、2014年大型ねぶたデビュー(マルハニチロ俊武多会)、以後毎年制作。(敬称略)



不動明王と慈母観音
ふどうみょうおう じぼかんのん
大日如来の化身である不動明王は怖い形相をしています。これは災難から人々を何が何でも救済するという不動明王の強い意志の表れといわれています。右手に魔を退ける三鈷剣を、左手には悪や煩惱を縛り上げる羅索という縄を持っています。病氣平癒や家内安全など多くの御利益があり、各地で広く「お不動さん」として親しまれています。世界中の苦しみの音を観るといわれる観音様。慈母観音は、母が子に対するが如く、どこまでも深く大きい慈悲の心を持ち、温かい慈しみの眼差しで常に子ども達を見守る心優しい菩薩様です。不動明王と慈母観音の思いは「苦しんでいる人を救いたい」と日々活動する、日本赤十字社の精神に重なります。日本赤十字社の社紋にも描かれる吉祥の鳥「鳳凰」そして「不動明王と慈母観音」の姿に、世の安寧と人々の幸福を切に祈り願うものであります。解説・手塚茂樹

八戸酒造と有名シェフらが おにぎりを提供

八戸赤十字病院で贈呈式

6月28日、八戸赤十字病院で贈呈式が行われ、八戸酒造と有名シェフらが連携し、地元食材を使ったおにぎり300個(1食分2個で150食分)が同院の医療従事者に提供されました。

今回の「おにぎりプロジェクト」は、東京の有名フレンチ料理店「NARISAWA」の成澤由浩オーナーシェフと、国内外に店舗を展開する高級レストラン「WAGYUMAFIA」の浜田寿人オーナーシェフが中心となり、全国の酒蔵と連携して月に一度、全国各地域の医療従事者に感謝の気持ちと温かい思いを届けるプロジェクトとして本年2月にスタート。これまで富山県福島県、鹿児島県、和歌山県で行われ、青森県(八戸市)は第5弾となりました。

成澤さん、浜田さん、八戸市内の飲食店関係の有志らが、医療従事者への感謝の思いを込めて一つ一つ丁寧に作られたおにぎりを手に、紺野広院長は「飲食業界の方々も厳しい状況と認識している。私たちの頑張る力をいただき、医療従事者を代表して感謝申し上げます。」とプロジェクト関係者に対し、敬意を示しました。



感謝の思いが込められたおにぎりを手に、写真に納まるプロジェクト関係者と八戸赤十字病院の医療従事者ら(上)



八戸酒造が契約栽培するコメ「レイメイ」に、八戸前沖サバなどを具材としたおにぎり(左)

令和3年度赤十字会員増強・活動資金増収運動実施中!

赤十字を支えるあなたの“ちから” 赤十字会員の加入、活動資金(会費・寄付金)のご協力をお願いいたします。

赤十字レッドライトアッププロジェクトin津軽ダムを開催

～人道のひかりが世界をつなぐ～

日本赤十字社は、紛争や災害で苦しむ人々に寄り添い、「人道」への理解を深めていただくことを目的として、赤十字の創始者 アンリー・デュナンの生誕の日である5月8日の世界赤十字デーを中心に、全国各地の歴史的建造物などのレッドライトアップを行っています。



2年ぶりに堤体が赤く彩られた「津軽ダム」
撮影・提供:国土交通省 東北地方整備局 岩木川ダム統合管理事務所

青森県内では、平成30年度から国土交通省東北地方整備局 岩木川ダム統合管理事務所様のご協力により、世界遺産白神山地にあります「津軽ダム」のライトアップを行っており、5月8日(土) 19:00～21:00の限定で津軽ダムの巨大な堤体が赤く染まりました。

津軽ダムのレッドライトアップは、新型コロナウイルスの影響により2年ぶり3回目の開催となりました。

道の駅「津軽白神」から車で10分、静かな森の中にライトアップされたダムが浮かび、レッドライトが反射した木々と星空のコントラストがとても幻想的で、多くの写真愛好家がカメラを構えていました。

赤十字事務担当者研修会をオンライン形式で開催

～34の地区区分から41名の職員が参加～

5月21日、青森県支部は、県内の福祉事務所や各市町村で日赤の業務を担う職員を対象に「日赤地区区分事務委員等研修会」を開催しました。

2年ぶりの開催となった研修会は、新型コロナウイルスの影響を考慮し、県内の各市町村をオンラインで結び、34の地区区分から41名の職員が参加しました。(オンライン形式での開催は初めて)

研修会に先立ち、神事務局長が挨拶を述べ、赤十字活動を支える「力強い柱」としての協力を呼びかけました。

その後、参加した職員は、支部職員から赤十字に関する講義や事務について説明を受け、赤十字活動に対する理解と知識を深めました。



オンライン形式で開催した研修の様子

県内 Topics

いざという時のために備えよう!

～アナウンサーらが心肺蘇生を体験しました～

7月7日、青森県支部は救急法基礎講習会を開催し、青森放送株式会社(RAB)の社員5名が心肺蘇生やAEDを用いた除細動について学びました。

指導にあたった三浦指導員は自身の体験を踏まえ、救助者自身の安全を確保することや一次救命処置の必要性について説明しました。

その後行われた実技では、正確な胸骨圧迫の方法やAEDを用いた除細動の手順を中心に、訓練人形やAEDトレーナーを使用し体験しました。

受講者からは、「心肺蘇生はまさに体力勝負。AEDが来るまで続けるのはかなり体力が必要だと思った」「今回学んだことを活かし、倒れている人を見かけたときは自分自身の安全を確保し、進んで救助にあたりたい」などの感想が寄せられました。

今回開催した救急法基礎講習会などの安全法講習会は、現在コロナ禍での実施要件として、3つの密(密閉・密集・密接)の防止や基本的な感染予防対策(手指消毒・マスクの着用)、受講者の体調確認などの全ての要件を満たすことが必要となります。

救急法講習会など講習会に関するお問い合わせは、事業推進課まで。



胸骨圧迫の方法を確認する RABアナウンサーの中村さん

献血の更なる普及啓発

～一般社団法人 生命保険協会青森県協会が立て看板を寄贈～

この度、一般社団法人 生命保険協会青森県協会(以下、(一社)生命保険協会)から青森県赤十字血液センターに対し、献血の更なる普及啓発のために役立ててほしいと献血周知用の立て看板が寄贈されました。

(一社)生命保険協会では、毎年、県内の生命保険会社に協力を呼びかけ、積極的な献血を行っています。

5月14日、青森県支部を会場に行われた立て看板の寄贈には、(一社)生命保険協会から加藤秀俊会長が出席され、青森県赤十字血液センターの葛西所長より、感謝の言葉と支部長感謝状の贈呈が行われました。

寄贈された立て看板は、弘前献血ルーム CoCoSAに設置されています。



寄贈された立て看板を中心に記念撮影に応じる(一社)生命保険協会の加藤会長(右)

“知る、見る” 赤十字

～熱中症にも十分な対策と予防を～

世界中が新型コロナウイルス感染症に立ち向かう中、私達はマスクを着けて過ごす時間が以前よりも格段に長くなっています。マスクを着けていると、呼吸によって身体の熱を体外に発散できず、熱が体内にこもってしまいます。

そして、マスクによって口の中が保湿されるため、喉の渇きを感じにくくなり、また、マスクを着けていると水分補給を億劫に感じるなどから熱中症のリスクが高まっています。

日本赤十字社広島県支部では、コロナ禍での熱中症予防を呼び掛ける動画を公開していますので、是非、ご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=g9g61og7Z9o>



赤十字ネットワークニュース

義援金は、災害により生命・財産に大きな被害を受けた方々に対し、被災者の当面の生活を支えることを目的としています。受け付けた義援金は被災された方々に迅速かつ公平に配分されます。現在受付中の国内災害義援金と受付期間は以下のとおりです。

- 令和3年7月大雨災害義援金 2021年10月31日(日)まで
- 令和2年7月豪雨災害義援金 2022年3月31日(木)まで
- 平成30年7月豪雨災害義援金 2022年6月30日(木)まで

※受付期間までにご入金いただけますようお願い致します。

献血にご協力くださる皆さまへ

献血のご協力にあたり以下の事項についてご確認くださいませよう、よろしくお願いたします。

1 献血の条件について

採血の種類	全血採血		成分採血	
	200mL	400mL	血漿	血小板
1回採血量	200mL	400mL	600mL以下(循環血液量の12%以内)	
年齢	16～69歳	男性:17～69歳 女性:18～69歳	18～69歳	男性:18～69歳 女性:18～54歳
	ただし、65～69歳の者については、60歳に達した日から65歳に達した日の前日までの間に採血が行われた者に限る。			
体重	男性45kg以上 女性40kg以上	男女50kg以上	男性45kg以上 女性40kg以上	
最高血圧	90mmHg 以上 180mmHg 未満			
最低血圧	50mmHg 以上 110mmHg 未満			
脈拍	40回/分以上 100回/分以下			
体温	37.5℃未満			

2 献血をお受けできない基準について(一例)

- ①輸血や臓器移植を受けたことがある。
- ②3日以内の出血を伴う歯科治療や服薬(献血可能なお薬もごさいますので、お薬名をお知らせください。その場でお調べいたします)。※血圧、高脂血症、高尿酸値等の生活習慣病の薬は問題ございませんが、体調等を含め、当日の検診医が判断させていただきます。
- ③24時間以内のインフルエンザ予防接種や海外から4週間以内の帰国。

3 献血のお願い

- ①空腹時の献血は体調不良を起こしやすいため、できましたら食事の摂取をお願いします。
- ②献血後の激しい運動やサウナは、危険ですのでお控えください。
- ③献血カードを持参していない方は、運転免許証等の本人確認できる証明書をご用意ください。

献血ヒーロー 募集中!

患者さんのいのちを助けるためにあなたの血液を分けてあげてください。

献血ってな～に?

日本では病気の治療や手術などで1日に約3,000人が輸血を必要としています!

手術 事故 病気の治療 出産

すべての方に血液をお届けするためには 毎日約14,000人の献血が必要!

献血へのご協力をお願いします!

あなたの力を待っている方がいます

献血しなくてもおなさんひとりでいかにヒーロー!

新型コロナウイルス感染症対策 実施中

献血に関するお問い合わせは、青森県赤十字血液センター 献血推進課まで ☎017-741-1512

献血は“16～69歳まで可能です!”

※65～69歳までの方は、60～64歳の間に献血経験のある方に限ります

献血ルーム ■全血献血/9:30～12:30、13:45～17:00
受付時間 ■成分献血/9:30～11:50、13:45～16:20

- 青森献血ルーム ☎ダイヤル0120-649-489 青森市長島1丁目3番1号 日赤ビル4階
- 弘前献血ルーム「CoCoSA(ココサ)」 ☎ダイヤル0120-768-489 弘前市駅前町8-1 大町タウンビル2階
- 青森県赤十字血液センターホームページ <https://www.bs.jrc.or.jp/th/aomori/index.html>

